

令和8年2月4日(水)

# 魚沼きこえの教室だより

令和7年度 第10号

長岡聾学校小出分教室（小出特別支援学校内）

きこえの教室 担当：小池 豊

〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2

Tel:025-792-5462 fax:025-792-5465

Email:koike.yutaka@nein.ed.jp

きこえの教室では、「難聴理解かるた」を使って学校生活を振り返り、困り感やニーズの把握に努めています。多くの子どもたちが選ぶ札に、『わかった？ときかされると、おもわず「うん」と言っちゃうの』があります。聞こえにくい子どもたちの心情を、実によく表しています。本当はよく分からなかったのに、聞き返すのが恥ずかしかったり、遠慮をしたりして、つい「分かった」と答えてしまう子どもたち。しかし、そうした場面は、私たちもよく経験しているのではないのでしょうか？ 今月は、かるたをとおして見える子どもたちの思いをご紹介しますと思います。

## 「難聴理解かるた」から学ぶ

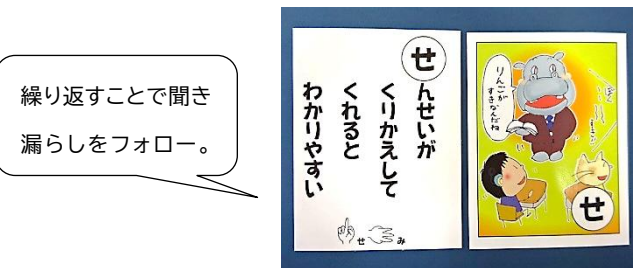
### ▲音や声が重なる

多くの子どもたちが学ぶ教室。様々な音や声が同時に響いています。ペアトークやグループトークで一斉に話し始めると聞き取りにくくなります。聞き漏らしがあっても、なかなか聞き返せません。



誰が話しているのか  
分からなくなります

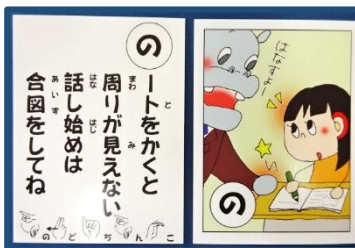
- ・ロジャーを活用します。
- ・話す人は一人ずつ順番に話します。
- ・話されている内容について紙やホワイトボードに書いて示すようにします。
- ・発言を繰り返し、伝わったかどうかを確認します。



繰り返すことで聞き  
漏らしをフォロー。

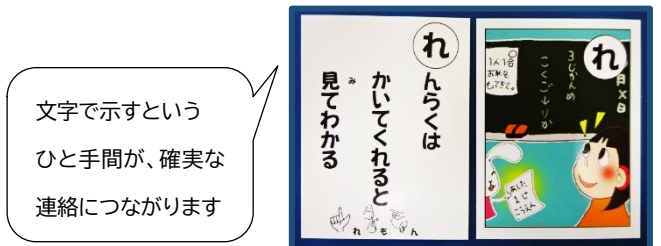
### ▲作業中の指示には注意を！

課題や作業に取り組んでいる最中、つまり子どもたちが下を向いている時の声掛けは、伝わりにくいものです。机間巡視中の指示なども同様です。



難聴児にとって、  
「～しながら聞くこと」は  
至難の業です。

- ・追加の指示があるときには、全体の指示の後、個別に指示すると効果的です。
- ・確実に伝えたい場合は、口頭ではなく板書をする  
ことで、しっかりと確認することができます。



文字で示すという  
ひと手間が、確実な  
連絡につながります

難聴がある児童生徒にとって授業が分かりやすくなるということは、他の子どもたちにとっても分かりやすく、楽しい授業になるのではないかと思います。各学校にいる難聴児童生徒の実態に応じて配慮をお願いします。

イラスト・文は「難聴理解かるた 文・絵/ふじもとゆうこ(難聴児支援教材研究会)」より引用しました。  
きこえの教室に通う児童生徒の「これ、あるある！」という声から作られたものです。